

アベマキ巨樹の寿命

石 沢 進

新潟県におけるアベマキ（ブナ科）の分布は、県内の北部に偏っており、主に山地よりも平野部に生えている（浅見 1982 分布図）。平野部の集落近い樹林内や神社・仏閣の寺社林にみられる。寺社林の中で保護されて巨樹に生長していることもある。これまでに注目されている巨樹として「県天然記念物・豊岡のアベマキ」がある。しかし、その巨樹は道路脇に生えており、台風の際大きな枝が落下したことがきっかけで、さらに枝の落下が懸念されたことから、目通り 4.15m の巨樹を伐採してしまった。その後、切り株から萌芽したように聞いているが、その後の推移を観察していない。また、県指定の「石船神社社叢」の中に目通り 2.9m のアベマキの巨樹が生えている。このアベマキは、ヤブツバキの樹林から高々と枝葉を張って見事に生育していた。しかし、2009 年秋に、この社叢を訪れたところ、ほとんどのアベマキの枝葉が枯死して一部だけ生存している状況であった。残念ながら、生存が危ぶまれる状況であり、翌年に葉が展開する可能性が少ないように感じた。この巨樹が枯死すると、県内に生育している「アベマキの王様」が失われる。枯死の原因は、外観から明らかでないが、腐朽菌による老衰のように感じる。

また、近年猛威をふるっている「カシノナガキクイムシ」による被害も心配である。アベマキの樹林も、点在する樹も少ないので、県内における今後の動向に注目したい。



図 アベマキの新潟県における分布（浅見 1982）

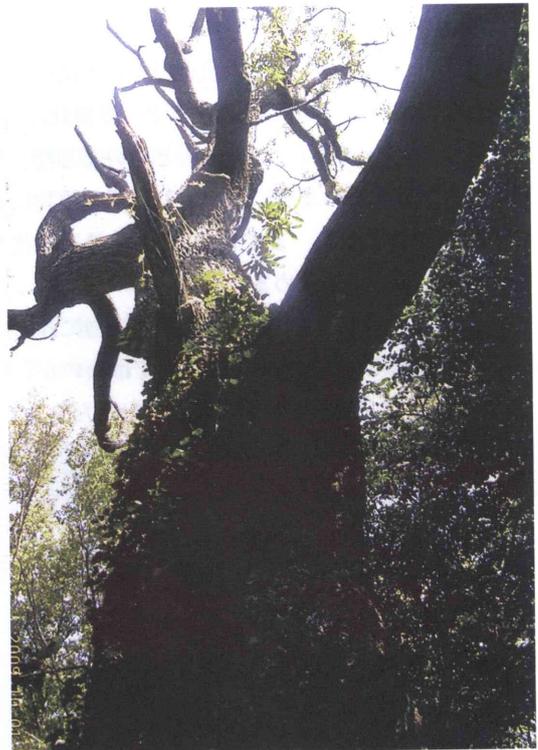


写真1 アベマキの巨樹の状態：樹冠部
(2009.10.1)

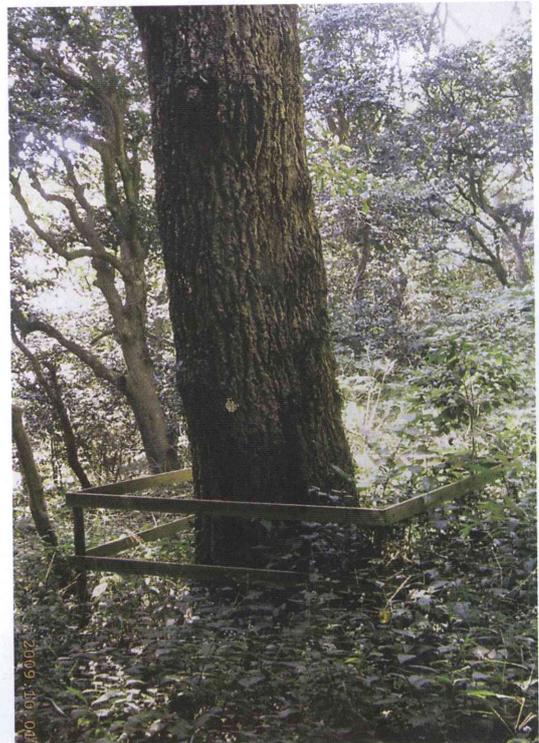


写真2 アベマキの巨樹の状態：地上部
(2009.10.1)

アベマキに関する情報を寄せて頂ければ幸いです。



写真3 アベマキの巨樹の下層に群生して開花するヤブツバキ (2007. 4.18)